

## 経営者への活きた言葉

## 修行というのは死んでからも修行だ 千 玄室(茶道家千家前家元)

1. 千家が掲げた精神の一つに「不易流行」があります。これは一言でいえば、自然体であれということでしょう。誰かにおもねることも時代に迎合いごうすることなく、自然と歩みをともにせよと。やはり「不易流行」とともに「温故知新」ということが大切です。時代の変化に合わせて、新しいことばかりチャレンジを重ねていると本来の姿を見失ってしまうことを危惧します。
2. 私は父が還暦を迎えた頃に結婚したのですが、その時「ええか、修行というのは死んでからも修行やぞ」と言われました。当時は「死んでからなど、修行ができるものか」と小生意気に思ったりしました。そればかり考えていますと、ある日、なるほどなという明確な答えが返ってきました。いったん何かを志したら、どんなことがあっても、いや、あの世へ行ってもなお修行をせよという、一つの厳しい道の教示ではないか。そう考え始めてから気が楽になりました。
3. 修行のため僧堂に入り、ある時、庭の草抜きをしていました。すると後藤瑞ずい巖がん老師が立っておられて「あんたはいま、どんな気持ちで草を抜いてるんや？」と聞かれた。そう言われても、別段何も考えていない。後で呼ばれてこう言われました。「あんたは戦争から帰ってきて、忸怩じくじたる思いでいることはわかる。しかし、あんたが抜いてたあの草も生きているのだ、その草をなんとも思わず抜いていたらダメだ。生きてる草に“抜かせていただきます”という気持ちを持たないといけない」。この言葉を聞いて、生かされて帰ってきたからこそ仲間の分まで頑張らねばならないと思いました。

(参考:「致知」2013年1月号)

## 経営者のための営業学

## 切れ目なイベント(TDL)

1. TDL(東京ディズニーランド)入園者は年間2500万人超。今年度はTDL開業25周年時(2008年)の過去最高2722万人に迫る勢いだ。入園者の9割が首都圏中心のリピーターだ。日本人は期間限定イベントが好きで、いろいろな体験を楽しみたがる。イベントのよさは「今だけ」の点。そのとき行かなければ体験できない。
2. 来年度は、1983年の開業以来、30周年となる節目の年。定番の季節イベントに加え、来年4月15日から再来年3月30日まで、「ザ・ハピネス・イヤー」と名付けた周年イベントで盛り上がる。リピーターだけでなく、頻繁に足を運べない地方からのゲストをいかに呼び込めるイベントを作るか、周年イベントの成功はそこにかかる。

(参考:「週刊東洋経済」:2012年11月10日号)